

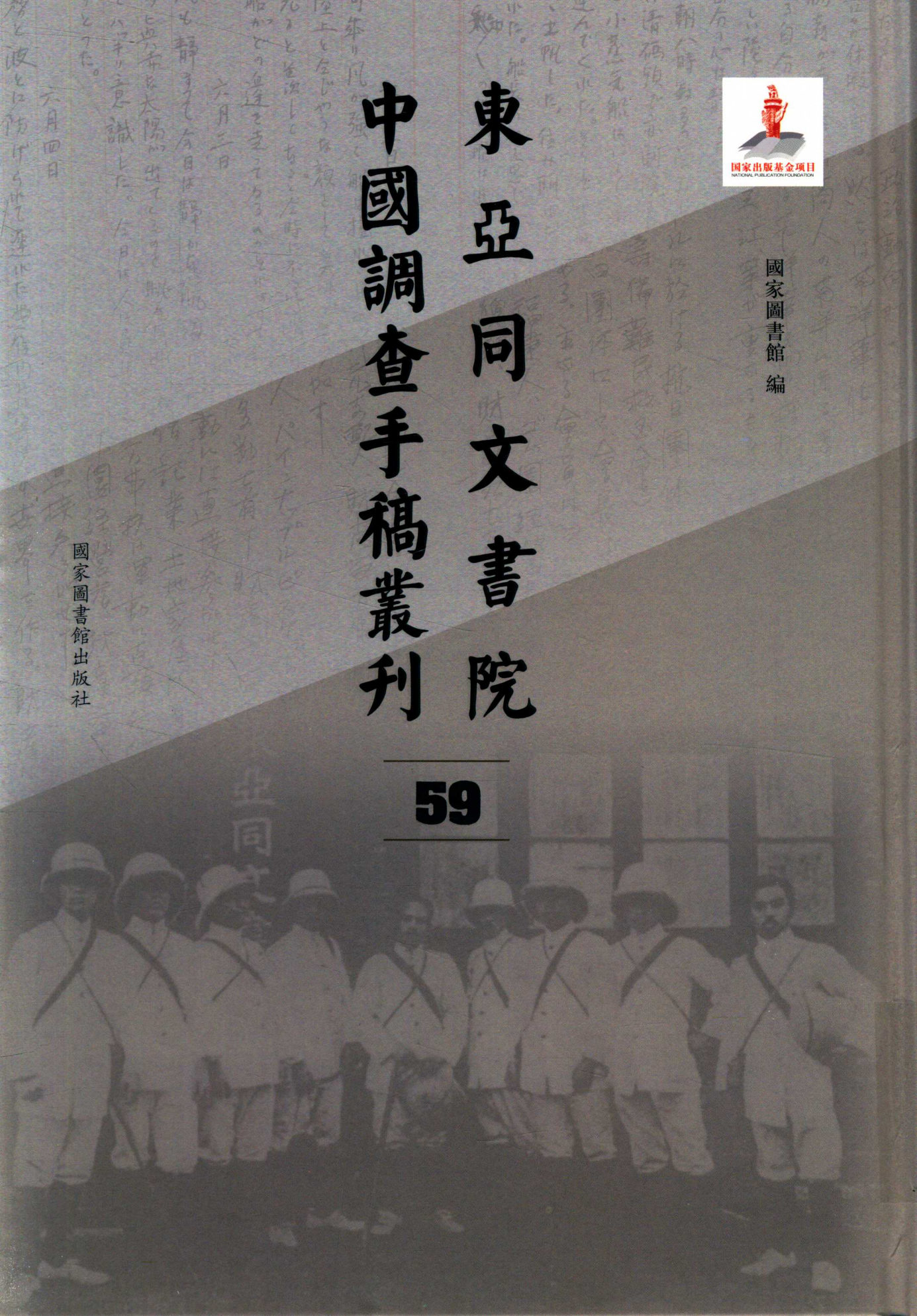


國家圖書館 編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

59

國家圖書館出版社



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

59

第五九冊目錄

昭和十五年（一九四〇）旅行日誌（第三十七期生）

崔春甲	河北第一班		一
佐古廣利	河北第一班		三五
今泉陽男	河北第一班		五三
金井正次	河北第一班		六一
風間金丸	河北第一班		九一
日野原朝典	河北第二班		一一五
齋藤保夫	河北第二班		一四五
阿部善種	河北第二班		一六三
杉本要吉	河北第二班		二〇七
蜂巢一郎	河北第二班		二五三
矢田民雄	河北第二班		二七一

松坂賢	山西第一班	三五九
柴田武夫	山西第一班	四〇三
多賀重孝	山西第一班	四二一
馬場晃	山西第一班	四四七
平田文次	山西第二班	四六七
村井光三	山西第二班	四九七
古賀久生	山西第二班	五二七
緒方正己	山東班	五五七
前山博延	山東班	五七九
柳内滋	山東班	五九三

昭和十五年度

大旅行日誌

河北省調查第一班
崔春甲

六月二日

七時内監集合

各先方及下級生諸兄より嵐吹けく

を此處の挨拶に勇躍出で

九時碼頭著青島九に乗込五時止帆船内に於て色々

談をすませ旅次中の計畫等を再見計す

夜十時頃十八期豊島先輩の船室に参り時局談を聞く

六月三日

午後二時青島著三十五分玉井氏の出迎あり一同十七分

共に冠県路海軍協会に宿泊す

午後四時ラブリュキニ四十五分協先輩と対面六時解
散その後より市中見学と也

六月四日

午前九時一同十七名^{（注）}賢心ス借切にして青島名所を
見学海星砲台等非常に佳にして視たる

午後七時放典^{（注）}ラブリュキ大旅団歓迎会あり数多の老先輩
の出席あり先輩との恒^{（注）}親睦況て目撃し非常に心を
す。

六月五日

午前八時改田先輩の案内により青島寧電取付公司に見
学にゆかり。——沿九名塙穀場仲々大仕掛にして流血の状
気味悪し。

十時鮮銀の二十三中原亨氏に面会。鮮銀並に華北を清
につき渡りてうし。

午後五時三十三分植松先輩宅に参り大種統制を清閑し
相談的に指導てうし。

の聯銀券の対外的下落と換物傾行

日銭時のインフレと換物傾行

③ 不完全な統制配給による物の保持傾向

④ 華人外人に対する統制の不振により物價騰貴と物

物出廻

⑤ 聯銀の対外相場と外人来住者の生活と好条件

等の説明により華北統制全篇の必要性を痛感す

六月五日

青島
日東商工会議所

松崎雄二即生輩に面会青島に於け

る食糧対策及び統制制度に關する説明をうく

並に物産生活の輸出入状況もきく

米棉花石油燐すの統制乃至協定價格の構成を備中との
にとり。

六月一日

七時起床九時濟南行に乗車 三十六キ南沢に退小途中

迄見送とうし

汽車は懷疑にして尋司詰り所に於て人道主義對民

族主義の大方角還を目撃す無智なる為か盲目の後方

めかの感て強くす

午後七時二十分濟南着 駅に於て十三十六キ生村氏に

退し泰山旅館に投宿

九時坂下田圃のニ先輩に遇ふ

今日の車中よりの展覧は非常に良好なり。農の玉支那の
実体を目撃す。孔孟の地皇の玉を~~横~~断し感慨無量なり
車中に於て近思録中一款を讀破し識仁の度を深くす。
今日の調査は具體的收穫あり

六月七日

班員全部に於て先づ駅にゆき、今村、下澤、磯川の諸先輩に
面会、記録、旅次を稟聴せり

7
十時清南領事館に参り難波氏に面会す

統制委員に關し議合す
委員等統制のコース等
のヒントを云ふ

午後二時塩務局坂下氏に面会
塩業に關し

の引取の問題

② 治安の統制生産
消費の状況

③ 統制と中央機關の
支配強弱

④ 現金と現物問題

等の専門的知識を
取得せり

六月八日

十二時着南郷

午後六時半着泉若 伊藤道光先輩の宅に投宿す。

名辰修座談

の治安と鄉村整備

②治安と村民会の仕事

③食糧の他有搬出禁止等に關しきく

六月九日

本日青果に滞在村民会指導部よりその状況と概覽セリ

六月十日

午後一時五十分青島發 午後五時天津著 直ちに市民

會、長友先輩宅に投宿す。

八時磯川岩本兩先輩に遇ひ、充分款待さる。

天津市内を以て参す。

六月十一日

八時起床 信豐銀子に参り所用をすませ 天津碼頭に見

参りしゆき、参りの概略の役目をきく

午後一時三十分北京行に乗車 四時北京著

六月十二日

午前六時半起床 心身鍛練道場のういお体操に参加す

現在在留邦人の自営的生活状態の一端を目撃し感激す

十時中南海公園の米倉先輩に参上す

水民会の過去将来に關し拜聴す 尚ほ水民会の華北を

備工作に及ぼせし影響等をきく

六月十三日

十時北京駐在班矢田民雄氏来り

共に水民会にゆき 古屋、山口、猪口、大石先輩に遇